

令和元年度（2019年度）学校版環境ISOへの取組 概要報告

管内	市町村	学校名
熊本市	熊本市	砂取小学校

1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>【省資源・リサイクル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙ごみと燃えるごみの分別をします。 ・掃除の水はバケツを利用し、使用量を減らします。 ・落ち葉を腐葉土に利用し、ごみの減量を目指します。 ・会議資料などを、可能な限りペーパーレス化し、紙の消費量を減らします。 <p>【省エネルギー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室を使用しないときは、電灯消し忘れ0を目指します。 <p>【環境保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もくもくピカピカ掃除に努め学校をきれいにします。 ・一人一鉢運動を行い花いっぱい为学校にします。 ・ごみの分別を徹底し、ごみを減らします。 ・職員室が不在のときは電灯を消します。
行動	 	<p>(1) 【省資源・リサイクル】</p> <p>○紙ごみと燃やすごみの分別をします。 環境美化委員会で、トイレトーパーの芯と巻き紙の回収を行った。毎月ごみ袋3つ分ほど集まり、燃やすごみの減量に役立っている。また各教室に手作りのリサイクルボックスを設けることで、リサイクルに対する意識の向上を図っている。</p> <p>○掃除の水はバケツを利用し、使用量を減らします。 掃除はバケツを利用して行った。雑巾を洗う際はバケツの水を使うことで節水の意識を高めることができた。また、防災倉庫にあった消費期限を過ぎたペットボトルの水を掃除の水として使用し、節水に心がけた。</p> <p>○落ち葉を腐葉土に利用し、ごみの減量を目指します。 環境美化委員会を中心に毎朝、児童が自主的に校門近くや落ち葉の多い場所の清掃を行っている（砂取ボランティア）。この作業で集めた落ち葉は、「葉→土工場」で腐葉土づくりに利用している。できた腐葉土は園芸委員会で土の再生を行い、一人一鉢や花壇の土の改良のために利用した。培養土の購入</p>

	<p>を控え、一人一鉢の土には、この再生土を 2 割混ぜて利用した。</p> <p>○会議資料などを可能な限りペーパーレス化し、紙の消費量を減らします。 職員は会議資料などを可能な限りペーパーレス化し、紙の消費量を減らした。児童は、ワークシートなどでタブレット紙の消費量を減らした。</p> <p>○プリンターのインクボックスを回収しリサイクルします。 (PTA) PTAのベルマーク委員会でインクボックスの回収を行っている。職員室前の廊下に回収箱を設置して、いつでも入れることができるようにしてある。</p> <p>(2)【省エネルギー】</p> <p>○教室を使用しないときは、電灯消し忘れ〇を目指します。 環境美化委員の活動で電灯消し忘れ〇を呼びかけるポップやポスターを作成した。また、職員室や印刷室など使わないときにはこまめに電気を消すようにした。</p> <p>(3)【環境保全】</p> <p>○もくもくピカピカ掃除に努め、学校をきれいにします。 環境美化委員によるもくもくピカピカ掃除コンクールを行った。委員が掃除の時間に各教室を回り掃除の出来具合についてチェックをした。また掃除のしかたをまとめた映像をつくり、学級で見ってもらうことで、掃除に対するが高まった。このような取組を児童中心で行うことにより、より必要感をもって環境保全に取り組むことができるようになった。</p> <p>○一人一鉢運動を行い、花いっぱい学校にします。 4月に各学年で計画を行い、1年を通し一人一鉢運動を推進した。朝の時間、学活、グリーンタイムなどの時間を使い、子どもたちが花を育てる喜びや身近な植物に対する愛着を育てることができた。また、緑の募金活動を行い、緑化に対する関心を高めるとともに、集まったお金で花壇に植える花の種子・苗、用土等の購入ができた。そのおかげで学校緑化を推進することができた。</p> <p>○ごみの分別を徹底しごみを減らします(職員)。 ごみの種類によってごみ箱を分け、分別に取り組んだ。分別する習慣を徹底することで省資源やリサイクルへの意識を高めた。</p>
--	--

		<p>○自然に親しみ、学び、環境についての知識を増やします。 本校校区には「江津湖」があり、自然環境体験ゾーンとして活用している。1年生の生活科の時間では「江津湖の生き物探し」として、自然環境学習に取り組んでいる。江津湖の水のきれいさを学び、そこに住む生き物の多様性を知る機会となっている。また、校舎内には「えづこ水族館」を設け、いつでも江津湖の生き物を観察できるようにしている。校庭にある「えづこの森」を改修して水が流れるようにする計画もある。水棲生物などが飼育できるように計画している。</p>				
記録			平成 30 年度	前年比	令和元年度	前年比
	水道使用量	6844 m ³	88.3%	6366 m ³	93.0%	
	紙使用量	603000 枚		393500 枚	65.3%	
	ガス使用量	2666124 円	156.9%	2353915 円	88.3%	※R2 年 1 月現在
見直し		<p>○環境美化委員を中心とした児童・教員・PTAと連携してISOの推進をしていくことができた。ISOに対する態度や意識面の変化を児童の何気ない行動から見取ることができた一方で、客観的に数値化し表すことができなかった。アンケート等を実施し継続的に調べることでよりISOの推進へつながると考える。</p>				
		<p>○環境美化委員が中心となって活動を進めることができた。もくもくピカピカ掃除コンクールや砂取ボランティアの実施など児童が主体的に、楽しみながら活動を行うことができた。より児童の主体性を生かすためにも、ISO委員会を設置し、宣言項目の設定や定期的なチェック活動を行い、児童自身によるPDCAサイクルの実施を図る必要がある。</p>				

2 成果と課題

成 果	課 題
<p>今年度は、環境美化委員会の子どもたちの主体的な取組を促すことで、子どもたち自身が課題意識をもって取り組むことができた。今後は、学校全体が更に、高い意識をもつために、全体への啓発などを子どもたち主体で考えていきたい。</p>	<p>今年度は、タブレットの導入や、エアコンが本格的に利用され始めたため、電気利用量などを前年度と比較することが難しいという現状があった。客観的な数値で変化を見取るとするならば、もう少し、数値目標をたてる際に、どのような方法で見取るのかを考えておくべきだった。</p>